

茨城県 東海村 様

情報発信が村づくりを加速する プッシュ通知で住民のニーズに応える取り組みを

茨城県那珂郡に属する東海村は、人口約38,000人、村としては全国で2番目に人口が多い。日本の原子力発祥の地として知られる同村は、多くの自治体が人口減少を課題とする中で、長期的には増加傾向を保っている。一方では、貴重な文化遺産や、特産品の「干しいも」など、地域資源も豊富だ。

稼働から約2カ月が経過し、順調に情報発信を運用されている中で、あらためてアプリ導入に至った経緯や、今後の展望などについて、事業を主管する同村広報広聴課のご担当者にお話を伺った。

モバ支所 オリジナルテーマオプション

モバ支所の機能はそのままに、貴市区町村様イメージのデザインでオリジナルアプリとしてリリースする「**テンプレート型サービス**」です。

自治体様専用アプリとしてご提供

安心・安価なテンプレート型

初期費用 300,000円～
月額利用料 40,000円
※価格は全て税抜です。



お客様プロフィール



茨城県那珂郡に属する村。
人口約38,000人。※平成28年9月現在

[東海村役場]
茨城県那珂郡東海村東海3丁目7番1号

導入の背景

他の自治体との差別化を

「東海村では、重要な取り組みのひとつとして『情報発信の強化』を掲げていました。」

一般的な広報紙やホームページでの発信は行っていたものの、より発信力をあげる必要があった。

まずは、東日本大震災において有効性が再認識された事になったSNSに着目し、公式のFacebookページと公式Twitterアカウントの運用を開始した。

また、ホームページのリニューアルも行った。

「ほかの自治体との差別化も意識していたので、デ

ザイン等は工夫しましたね。」

こだわって作られたホームページは、平成27年度全国広報コンクールで見事入選を果たした。

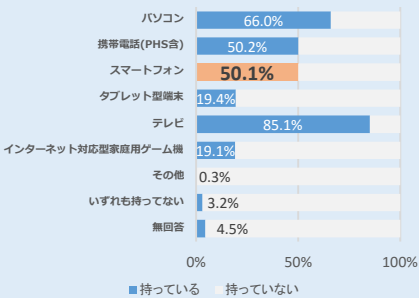
そして、情報発信担当が次の策として選んだのは、オリジナルアプリによる情報発信だった。

「ホームページは受動的なものですし、SNSも限定される部分がある。それに対してアプリのプッシュ通知は、かなり訴求力が高い。そこに期待しているんですよ。」



広報広聴課 主事
根本 雅隆 氏

東海村 情報通信機器の保有状況 (平成27年)



導入の経緯

本気のアンケートで村民のニーズと向き合う

「茨城大学と連携し、広報広聴に関する意識調査を行いました。無作為に各年代の割合に応じて抽出した3,000人が対象でした。」

住民に対するアンケートは難しい。結果から何も導き出せない事も少なくない。

「行政のアンケートはダメだ、と(笑)。大学の先生も注意しながら進めてくださいましたね。」

アンケートの結果、村民の約50%、20～50代に限定すれば73%という、多くの村民がスマート

フォンを所有している状況が明らかになった。

これを受けて、プッシュ通知の効果が出る目安を50%と予測していた広報広聴課は、「アプリによるプッシュ通知」の本格的な検討に着手した。

「多くの自治体が、独自アプリでの住民サービス向上に取り組み始めていましたね。」

他の自治体の状況も、新たな情報発信媒体への取り組みに拍車をかけた。

導入のポイント

欲しかった機能とコストパフォーマンスの高さ

従来の媒体とは違う訴求力の高さに注目していた、スマートフォンのアプリとプッシュ通知。「モバ支所」は必要な機能を既にそろえていた。

「とにかく、コストパフォーマンスが良い。庁内でも、金額を問題視するような声はひとつもあがりませんでしたね。」

モバ支所は、通常アプリ開発に必要な費用だけでなく、その後の維持に必要な、各OSのバージョンアップ・仕様変更などの対応も含めた価格で提供されるた

め、費用面で独自開発とは大きく異なる。

また、住民にとってはアプリの使いやすさも大きなポイントだ。

「シンプルで、操作性が抜群ですね。直感的に使える作りなので、住民の方からの問い合わせも特ありません。」

使いやすいインタフェースも、スムーズな業務運用の為には、重要な機能のひとつと言えるようだ。



東海村のゆるキャラ
イモソーファミリー

運用のポイント

村のアプリとすぐ認識できるデザインを

「デザインは最も重視しましたね。」

オリジナルテーマオプションはテンプレート型の為、独自のデザインを施すことができる。東海村公式アプリ「こちら東海村」では、アプリ用にデザインしたアイコンや、カテゴリごとのアイコンまでオリジナルにこだわった。

「生活に密着したアプリですから、親近感がわくようなデザインを目指しました。」

アプリの中には、住民に浸透している村のゆるキャラ「イモソーファミリー」も配置され、東海村らしさを前面に押し出したデザインになっている。



東海村公式アプリ「こちら東海村」の画面 (iOS版)



村章をあしらい新たにデザインされたアプリアイコン



フラットデザインに統一し、こだわって作られたさまざまなカテゴリアイコン



スブラッシュ画面アプリの愛称は「ごちむら」

庁内でもスムーズ導入

サービス開始直前、庁内各課の担当者が集められ、操作研修会が実施された。研修用の環境で、実際に担当者のスマートフォンにプッシュ通知を出す、実習形式だ。

根本氏から、この事業の主旨や、アプリとプッシュ通知の効果などについてわかりやすい説明があり、その後の実習では、具体的な質問が活発に出された。

この研修会では、アプリに通知する内容を登録する担当者のみが招集され、その内容について承認操作を行う上の方々は招集しなかった。

「担当者から、上司に説明してもらいます。」

簡単な操作とはいえ、承認操作がわからないなど、そ

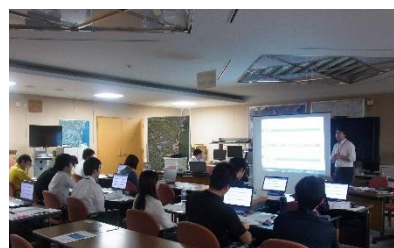
の後の広報広聴課への問い合わせが来ることを、根本氏は覚悟していた。

しかし、運用開始以降、問い合わせはほとんどない。各課からの情報発信は、活発に行われている。

直感的に操作できるシステムのシンプルさもあるが、研修会に参加された担当者の方々の意気込みと、根本氏の根回しが行き届いた結果だろう。

「ただ、代理承認の機能は欲しいですね。承認者が不在の時などは、対応の依頼がありますから。」

実際の運用で生まれたご要望が、モバ支所をより使いやすいサービスにしていける。



情報発信担当者向け操作研修会の様子

沢山の方に利用して頂くために

東海村様では、住民のアプリ利用促進の為、広報広聴課の方々を筆頭に、数々の取り組みにチャレンジしている。

「村長の定例記者会見でも、リリースの1カ月前から発表していました。」

ホームページやSNS、広報紙はもとより、地元水戸市を中心に配布されるフリーペーパーへの掲載、数種類のチラシの作成、コミュニティFMへ生出演しアプリを紹介するなど、地域のメディアを有効に活用した宣伝活動が行われている。

「ケータイのキャリアショップにチラシを置いて頂いたりもしてますね。学校経由で保護者の方にチラシ

を配布した時は、一気に利用者が増えました。」

他にも、8月に開催された「東海まつり」では、公式アプリ「こちら東海村」の宣伝ブースをかまえ、アプリをインストールした方にグッズを配布するなど、活発な活動を行っている。

お話を聞きながら、アピールするターゲットを明確にすることで、効果的な宣伝につながっていることと、その効果観察が次のアクションのアイデアにも生かされている事に気づいた。

このネットワークの良さは、敏感に住民のニーズを拾うアンテナを作り、きっと住民サービスの充実に繋がっていくことだろう。



制作されたチラシ類

広報紙掲載記事



グッズ紹介チラシ

イベントブース

今後の展開

近隣自治体での導入を

モバ支所には、利用自治体以外に、更に2つの自治体のお知らせを受け取る設定が可能だ。

「周辺地域の情報も、村の魅力のひとつになります。ぜひ、近隣自治体にもこのサービスを導入してほしいですね。」

居住地と就労地が違う、家族がとなり町で暮らしているなど、生活圏としてはひとつの自治体に限らないケースも多い。

行政区で分けられがちな情報が届きやすくなることで、住民の利便性はあがるだろう。根本氏は、今までの媒体にはない、新しい相乗効果に期待している。

アプリをきっかけに

広報広聴課には、名前の通り「広聴」の役割がある。

「広聴の機能もあれば良いですね。」

住民に対して訴求力の高いアプリをベースにすれば、広聴活動の強力なツールになるだろう。

「他にも、シティブロモーションでも使われ始めているドローンの活用や、流行のARゲームなども興味があります。」

さまざまな分野から活用していくアイデアも、単なる新しいものへの反応ではなく、まちづくりに取り組む熱意が生み出していることは、根本氏の熱い話しぶりからも明らかだった。

無料でご利用いただけます。
今すぐインストール！！

東海村公式アプリ
「こちら東海村」
iOS/Android 対応



東海村

検索

